



「アートウィーク東京」 vol.0 閉幕



国際的に活躍するギャラリーから新世代のアーティスト・ラン・スペースまで、国立美術館からプライベートミュージアムまで。現代アートを牽引してきた都内50のギャラリーと美術館が集い協働し、東京という都市の文脈に息づく現代アートを世界に向けて発信するかつてない規模のアートイベント「アートウィーク東京」は、来年の本格開催に向けてvol.0を11月4日（木）～11月7日（日）に開催いたしました。「アートウィーク東京」は年に一度、東京のアートシーンを世界に向けて発信する場として、来年以降も継続し開催していきます。引き続き、ご注目くださいますようお願いいたします。

artweektokyo.com @artweektokyo

「アートウィーク東京」参加ギャラリー、美術館より

きめ細やかなスタッフの配置や、バス車内ならではのアートプロジェクトが企画されていた点など、趣向が凝らされたとても素晴らしい取り組みだと感じます。AWTを通じて美術館やギャラリーに足を運ぶ人が増え、アートに直に触れる体験の醍醐味を多くの人に共有する媒体として機能していくことを期待しています。

— 堀 元彰 (東京オペラシティアートギャラリー チーフ・キュレーター)



バスの運営がうまくなされており、特に土・日曜には普段当館に来られない観客層の方にも多くご来館いただきました。

アートウィーク東京に参加してよかったです。来年もぜひ参加したいと思っています。

— ワタリウム美術館



この広い東京に点在する多くのギャラリーを自ら探し出し訪問するのは、至難の技であると思っておりました。そんな中でAWTの試みは、まだ訪問したことのないギャラリーを発見できる絶好の機会になり、また弊廊のように知名度が低いギャラリーにとっては、多くのギャラリーをバスで繋げていただくことで、明らかな集客と認知に繋がったと思います。来年は海外からのお客様も期待できると思いますので、それも意識した企画を考えたいと思っています。

— 堀内 晶子 (Gallery 38 ディレクター)

他都市に比べ、アートスペースが都市を縦断するように点在している東京では、複数のスペースを一日で訪れることは、決して容易なことではありませんでした。しかしそれもまた、東京という街がもつ特性であり、魅力でもあったはずでした。AWTは、単にアートスペースへのアクセスを提供するだけのものではなく、バスが街中を巡ることにより、都市とアートが切り離されたものではないことを再確認させてくれました。よりエスタブリッシュされたギャラリーや美術館、アーティストが運営するスペースなど、多種多様なスケールや文脈を持つアートスペースが含まれていたことや、東京の過去にも目を向けたプログラムの展開など、AWTが、決して一過性のイベントではなく、継続的なプラットフォームを作り上げていくことを目的としていることが強く感じられました。現状、海外からのお客様をお迎えすることはまだ難しいことでしたが、来年以降、世界中から東京へ多くのオーディエンスが訪れ、AWTのさらなる発展していくことを楽しみにしています。

— 窪田 隆之 (アーティスト、Fig. 代表)



日本人は美術館にはよく行くけれど、ギャラリーには敷居の高さを感じ敬遠する人が多いと言われます。AWTは美術館とギャラリーをバスで結び、多くの方を自然な形でギャラリーに導いてくれました。また、ギャラリーは駅から少し離れた場所にあることも多いので、今まで知らなかったアートスポットの発見にも繋がったはずでした。

パンデミックが収まったら、海外のアートファンにも東京のアートシーンを紹介する最高のイベントになると思います。

— 柿島 貴志 (POETIC SCAPES ディレクター)



東京の街を回遊しながらギャラリー巡りを楽しんでいる、生き生きとした空気感がお客様から伝わってきました。AWT開催中の弊廊の展覧会が実験的な参加型の企画だったため、様々なお客様にお越しいただきご参加いただけたことが大きな収穫でした。新しい層のお客様にも多数お立ち寄りいただけたので、来年はAWT期間にあわせた企画を考えたいと思うくらい、大きなポテンシャルを感じました。来年の本格ローンチの際は、海外からのゲストもお迎えできる状況になっていることを祈っています。

— 芦川 朋子 (WAITINGROOM ディレクター)

「アートウィーク東京」参加ギャラリー、美術館より

東京はとても広い範囲に渡って、ギャラリーが点在しています。

これらの場所をバスで巡るという試みは、昔から皆が夢見ていたことですが実現することはありませんでした。

だから今回、それが起こるといことがとても面白いと思っています。

海外の方にとってはもちろん、日本人、東京の人でさえ、この街のこれだけの広さを巡るのは難しいと思いますが、バスによって一気に巡ることができます。バスの中にはいろんなプログラムが用意されているのも良いと思いますし、さらに出会った人が繋がっていけるということもあって、この後の東京がどう変わっていくのか、楽しみにしています。

— 小山 登美夫（一般社団法人日本現代美術商協会 代表理事、小山登美夫ギャラリー代表）

3つの重要なポイントを見出しています。

ひとつは、フリーズ（ロンドン）などアートフェア開催時（コロナ前）の街は、街中がベストなプログラムを用意し、街中のアートスペースを周り、名だたる美術館は早朝から特別プログラムを用意するなど盛り上がりを見せます。アートウィーク東京はアートフェアという形ではありませんが、盛り上がりを見せ、一時期に集約して現代アートを観る機会をつくれたことはとても素晴らしいことです。

2つめは、美術館とギャラリー、アーティストが連携をすることにとっても意味があると思っています。コマーシャルギャラリー、非営利の美術館など、異なる立ち位置のセクターが連携をすることで、東京のアートシーンのエコシステムが実感できる機会になるということに重要性を感じています。

もう一つは、世界の近現代美術館のプロフェッショナルが集まる国際美術館会議（CIMAM）のメンバーが、コロナ禍で過去最大の650人以上に増えました。これは様々な国のミュージアムプロフェッショナルが、世界と繋がりたいと思っている欲求の表れだと思います。

今後コロナが収束していき、海外から人々が東京にやってくることを考えると、アートウィーク東京のような受け皿があることはとても意味があり、このことを視野に入れながら発展していったらいいと思っています。

— 片岡 真実（森美術館 館長）



アートウィーク東京は、海外から日本へ色々な人が集まってくる世界のアートカレンダーに入るものとして、機能していけるのではないのでしょうか。そして、将来的には、学術的にも、経済的にも、日本がアートワールドの国際的な拠点になる機会をアートウィーク東京は創出することができると思います。

— 村上 隆（アーティスト、カイカイキキ 代表）

*上記3名は2021年11月2日開催記者説明会より。登壇順



アートウィーク東京 vol.0 は下記のとおり開催いたしました

会期：2021年11月4日（木）－11月7日（日）

会場：美術館 6 館・ギャラリー 44 軒

参加者数：20,314 名（延べ人数）

主催：一般社団法人 コンテンポラリーアートプラットフォーム（JCAP）

協力：Art Basel（アートバーゼル）、一般社団法人 日本現代美術商協会（CADAN）

■ 参加美術館／ギャラリー

美術館

アーティゾン美術館 | <https://www.artizon.museum/>

東京オペラシティ アートギャラリー | <https://www.operacity.jp/ag/>

東京国立近代美術館 | <https://www.momat.go.jp/am/>

東京都写真美術館 | <https://topmuseum.jp/>

森美術館 | <https://www.mori.art.museum/jp/>

ワタリウム美術館 | <http://www.watarium.co.jp/>

ギャラリー

Gallery 38 | www.gallery-38.com

4649 | www.4-6-4-9.jp

青山目黒 | <http://aoyamameguro.com>

ANOMALY | www.anomalytokyo.com

WAITINGROOM | <https://waitingroom.jp/>

XYZ collective | <http://xyzcollective.org/>

MEM | <https://mem-inc.jp/>

オオタファインアーツ | <https://www.otafinearts.com/ja/>

カイカイキキギャラリー | <http://gallery-kaikaikiki.com/>

KANA KAWANISHI GALLERY | www.kanakawanishi.com

カヨコユウキ | <http://kayokoyuki.com/index.php>

兎玉画廊 | <https://kodamagallery.com>

KOTARO NUKAGA | <https://www.kotaronukaga.com>

ギャラリー小柳 | <https://www.gallerykoyanagi.com/>

小山登美夫ギャラリー | <http://tomiokoyomagallery.com/>

ギャラリーサイド2 | <https://www.gallerieside2.net/>

THE CLUB | <http://theclub.tokyo/>

シュウゴアーツ | <http://shugoarts.com/>

スカイザバスハウス | <https://www.scaithebathhouse.com/>

タカ・イシイギャラリー | <https://www.takaishiigallery.com/>

タグチファインアート | www.taguchifineart.com/

Take Ninagawa | <https://www.takeninagawa.com/>

タリオンギャラリー | <https://taliongallery.com/>

TARO NASU | <https://www.taronasugallery.com/>

東京画廊 +BTAP | <https://www.tokyo-gallery.com/>

ナンヅカ アンダーグラウンド | <https://nanzuka.com/>

日動コンテンポラリーアート | <https://www.nca-g.com/>

ハギワラプロジェクト | <https://www.hagiwaraprojects.com/>

PGI | <https://www.pgi.ac/>

ファーガス・マカフリー 東京 | <https://fergusmccaffrey.com/>

Fig. | <http://ffiigg.org/>

Blum & Poe | <https://www.blumandpoe.com>

ペロタン東京 | www.perrotin.com

POETIC SCAPE | <https://www.poetic-scape.com/>

Maki Fine Arts | makifinearts.com

MAHO KUBOTA GALLERY | <https://www.mahokubota.com/ja/>

MISAKO & ROSEN | www.misakoandrosen.jp

MISA SHIN GALLERY | <http://www.misashin.com/>

ミヅマアートギャラリー | <https://mizuma-art.co.jp/>

無人島プロダクション | <http://www.mujiin-to.com/>

ユカ・ツルノ・ギャラリー | <https://yukatsuruno.com/>

Yutaka Kikutake Gallery | <http://www.ykgallery.com/>

ユミコチバアソシエイツ | <http://ycassociates.co.jp/>

rin art association @ CADAN 有楽町 | <https://cadan.org/>

<http://rinartassociation.com/>

■ 「アートバス」 車内だけの特別企画 「都市を巡る声」 を開催

会期中に4つのルートで参加ギャラリー、美術館を結んだ「アートバス」。4つのルートごとにそれぞれ、**グループ・音楽、塩見允枝子、高山明、毛利悠子**の作品を体験できる特別企画を開催。企画は、ポンピドゥー・センターをはじめとする美術館で活躍してきた**ユン・マ**が手がけました。

■ オンライントークシリーズ

日本の現代アートの美術史的文脈やその楽しみ方に焦点をあてたオンラインのトークシリーズを開催しました。

AWTの公式YouTubeチャンネルでアーカイブ配信をしています。AWTウェブサイトより「TALKS」をご覧ください。

【出演者】

坂本健二郎／滋賀県立美術館ディレクター（館長）、藤村龍至／建築家、東京藝術大学建築科准教授、片岡真実／森美術館 館長、ロジャー・マクドナルド／キュレーター、エドゥエーター、アンドリュー・マークル／アートライター、エドゥエーター、塩見允枝子／アーティスト、橋本梓／国立国際美術館主任研究員

【お問い合わせは下記までご連絡ください】

アートウィーク東京事務局：info@artweektokyo.com

プレス／ディリープレス・竹形：03-6416-3201 naotakegata@dailypress.org



【Press Contact】

AWT プレス：デイリープレス（担当：竹形）

t. 03-6416-3201 090-1531-6268 naotakegata@dailypress.org

